報徳広場　路面電車

● 歴史

昭和３１年（１９５６年）まで小田原にも路面電車がありました。

路面電車が出来たのは、今から１３３年前の明治２１年（１８８８年）。

路面電車が出来た理由は、当時東海道線はありました。しかし当時の東海道線、

国府津から静岡までの線路は、今の御殿場線経由でつながっていたため

小田原市内・箱根方面には線路がありませんでした。

電車が通らないことで、街に人が来なくなる事をおそれた小田原と

箱根の人たちが考えて、国府津から小田原・箱根につながる

小田原馬車鉄道として開業されました。

馬車鉄道が開業されてから１２年。明治３３年（１９００年）水力発電を建設して、電気で走る日本で４番目の電車となりました。

馬車から電気に変わったので、名前も小田原馬車鉄道から小田原電気鉄道に変わりました。

そして、大正８年（１９１９年）には、湯本から強羅までの登山鉄道を開業しました。今の箱根登山鉄道になります。

翌年の大正９年（１９２０年）に、他社の電車であった熱海線が国府津から小田原を走る電車を開業しました。今の東海道線になります。

小田原電気鉄道は、同じ区間を走る電車が増えたことで国府津から小田原（今の市民会館前バス停付近）間を廃止しました。そして、小田原駅前まで線路を新しく作って走っていました。

昭和３年（１９２８年）に箱根登山鉄道が設立され、小田原から湯本まで走る箱根登山鉄道軌道線として運行していました。

昭和１０年（１９３５年）小田原から箱根湯本間の鉄道が開業したことにより、同じ会社の電車が同じ区間を走ることになったため、小田原駅前から箱根板橋間の２．４Ｋｍのみに線路が短縮されました。これにより、路線が小田原市内のみになったので、市内線と呼ばれるようになりました。

開業から68年、昭和31年（1956年）自動車の増加により、道路の改修計画により廃線されました。

廃線したあと、車両は改造されて、長崎で使用されてました。

そして今年！65年ぶりに小田原に帰ってきました。

● 地域とのかかわり

運行当時は、多くの人が利用して「チンチン電車」と呼ばれ親しまれていました。チンチン電車と呼ばれた理由は、ベルをチンチンと鳴らし車掌さんが運転手に合図をしていたからと言われています。

小田原ゆかりの路面電車里帰りプロジェクトにて、多くの支援者により、今の小田原市南町に帰ってきました。

● 関連するチェックポイント

・「豆相電車（湯河原町）」・・昔この地域で活躍していた乗り物です。

・「新幹線発祥の地（鴨宮駅前）」・・いま活躍している乗り物です。

※地域で活躍する乗り物の変化を時代ごとにまとめることで自由研究にできるかもしれませんね！